

丹精こめた作品勢ぞろい —第3回文化祭に600人が訪れ—

昭和五十四年の年頭にあたり、皆さんと共に新年を御祝福申し上げます。

昨年は多忙に明け暮れて夢のように過ぎた一年間でしたが、今、天地の万物はみな新たな陽光を受けており、心して生活設計を固めたいものです。

国政においては、昨年の暮れ新体制の内閣改組があり、さらにまた今年には、年頭早々から知事選挙を検討してゆかねばなりません。

村の産業開発といえは、どうし万福の年でありまして共に、皆さんの健康をお祈りしてご挨拶いたします。

河辺村に於けるこの新しい年が、



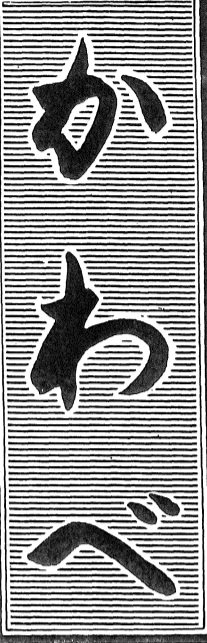
昭和五十四年の年頭にあたり、皆さんと共に新年を御祝福申し上げます。

昨年は多忙に明け暮れて夢のように過ぎた一年間でしたが、今、天地の万物はみな新たな陽光を受けており、心して生活設計を固めたいものです。

国政においては、昨年の暮れ新体制の内閣改組があり、さらにまた今年には、年頭早々から知事選挙を検討してゆかねばなりません。

村の産業開発といえは、どうし万福の年でありまして共に、皆さんの健康をお祈りしてご挨拶いたします。

河辺村に於けるこの新しい年が、



発行 河辺村公民館
編集 河辺村公民館編集委員会
電話 (089339) 2017
佐川印刷 KK
吉田町北小路 2-0600

河辺村人口動態

(S. 53. 12. 1 現)

世帯数	612
人口	2,250
男子	1,142
女子	1,108

(S. 50. 10. 国調)

世帯数	666
人口	2,368

(S. 50. 10. 国調)

世帯数	718
人口	2,810



すばらしい作品にうっとり

- 第三回文化祭が十一月七日、八日の二日間、栗選果場において開催され、開催以来間中延六〇〇人の人々が訪れてにぎわいました。
- 今回も会場に悩まされ一転二転した結果、ようやく決めた選果場の倉庫に即席の展示場を作り、壁を白く、小中学校生徒の書道・絵画や一般の書道、絵画の表彰式がおこな
- 今後の村行政方針は、今日までの基礎整備を生かして、数多く要望の出ている環境整備の充実を推進せねばなりません。
- また、桜の四月を迎える頃には建築中の集落センターも完成し、コミュニティ活動の場としても広く利用され、皆さんの御希望に答えられるものと期待しております。
- 以上、年頭にあたり所感を申し上げ、ここに改めて勇猛邁進し村政に邁進の一層励みたいと思っておりますので、皆さんの建設的な御意見、御指導をお願いいたします。
- 河辺村に於けるこの新しい年が、
- われ、審査結果は次のとおりです。
- 菊展
 - 特別賞—中東良市
 - 金賞—河辺中学校
 - 銀賞—清水フサ子、向井萬子、中東良市
 - 銅賞—上田文子、向井ミツエ、河野末子、二宮ツル子
 - 佳作—新 滋子、上久保スミ子、山岡スミエ、田中貴美子、藤田寿子、藤田ミツエ
 - 盆栽展
 - 金賞—運勢義弘
 - 銀賞—大見 明
 - 銅賞—松本忠男、佐伯龍男
 - 佳作—久保忠義、中東良市
 - 書道展
 - 金賞—河本千鶴(河小三)
 - 加茂祥可(北小四)
 - 山崎潤一(北小五)
 - 土居美子(北小六)
 - 加茂美津穂(中一)
 - 神山直美(中二)
 - 船田裕美(中三)
 - 絵画展
 - 金賞—新田幸恵(坂保)
 - 高橋幸子(河小一)
 - 吉野るみ(河小二)
 - 森川志郎(河小三)
 - 二四岡 剛(北小四)
 - 徳見雄二(北小五)
 - 田中由雄(坂小六)
 - 田中美香(中一)
 - 船田裕美(中二)
 - 銀賞—羽柴順子(河小三)
 - 福田 孝(北小四)
 - 山下健治(河小五)
 - 山下幼美(北小六)
 - 羽柴順子(河小三)
 - 奥平真優美(中一)
 - 松田郁子(中二)
 - 宮岡瑞穂(中三)
 - 宮岡瑞穂(北小三)
 - 万井寿美(北小四)
 - 河本英樹(河小五)
 - 小川真由美(坂小六)
 - 新田由美(中一)
 - 徳見和子(中二)
 - 上久保一志(中三)
 - 銀賞—藤岡陽子(河保)
 - 石浦ひさえ(北小一)
 - 河野浩美(河小二)
 - 河野建二(河小三)
 - 大野建二(河小四)
 - 田中 学(坂小五)
 - 山下幼美(北小六)
 - 織本美智子(中一)
 - 松田郁子(中二)
 - 吉野千草(中三)
 - 真田 輝(河保)
 - 山崎はるみ(北小一)
 - 井上雅裕(坂小二)
 - 山本浩憲(北小三)
 - 藤田秋子(坂小四)
 - 小林由美(河小五)
 - 小川真由美(坂小六)
 - 山本健勝(中一)
 - 水本智恵美(中三)

福岡県、遠賀川畔に生れ育った私が、父の故郷河辺村に帰ったのは、小学校へ入学する昭和二十年の春まだ浅い頃だった。二十歳の春また浅い頃だった。炭鉱の街で戦時下の我が国の重要拠点であり、それだけに敵機も多く、難を避けて河辺へ疎開したわけである。

初めて踏む河辺の地は、どこかであった。「鬼追い」の山、小針釣りの川と歌うあの「ふるさと」の唱歌そのままだ。空と緑が美しくかった。

いらい、十三年間河辺に過ごしてやがて松山—東京—松山と移った。現在の地は松山では、都合すでに二十年が近く、最も長い。しかし「河辺」は多感な少年時代を過ごした「ふるさと」で、それだけに村への関心が強く、その発展と村民の幸せを願う気持ちも強い。

私は新聞記者は、仕事の性格上、多くの市町村を訪ねるが、今夏は同僚と共に河辺へお邪魔した。やはり、どの市町村に

秋も深まり、山々の紅葉がスポーツにいろどりを添える十一月四日、絶好の秋日和に河辺小学校において第二回親子スポーツ大会を実施して、親も子も一緒に仲むつまじく終日楽しく過ごした。

高学年の児童と親がグループに分れてのオリエンテーリングや卓球。

低学年はドッチボールや鬼あそびなどルールを守らなくて失格になったり、子どもに引けられ汗だくで青息吐息の親達や得意そうな子どもの顔、顔……。

昼食はお母さんの真心こもる手作りの弁当。先生、食べよませんかの声に教師と親の心が通い、ここから連帯感が育つ。

この日ばかりは、父や母を独占した満足感にひたっているようです。ばらしい昼食風景でした。

午後は、保育園児をまじえての対抗レース、珍プレーやハッスルプレー続出のフットベースボールなどを眺めていると、当世流行の



珍プレーも続出したフットベースボール

「ふるさとに望む」

山 熊 野 伸 二

気がかりな点が無いはなかった。一つは、河辺にも、都会に蔓延している道徳的退廃が根を張り始めていると感じたことであり、今ひとつは、村民の中に将来に対する不安が潜在しているのではな

いかと感した事だ。いずれも、時代の大きな流れと密接な関係があり、ひとり河辺に限らない問題だが、せめて故郷はすがすがしく、明るい将来展望を持って欲しいと思った。このためには、まず村理事者、このチェック機能の村会議員ら村の中心的人々の奮発が望まれる。

社会の複雑化と、これに伴う価値観の多様化の中で、住民の二ノドを的確に把握し、理論的に解明し、施策として実践に移す事が望まれるその前提には、事に当たる人々の不断の研鑽(一さん)と誤らない指導性が不可欠で、しかも急を要するよう思われる。

社会情勢もますます厳しい今日低レベルの政争や村政の私物化を排し、村民が結集し内外の英知を集めれば、美しい自然を生かした明るい村創りも不可能ではない。元村民も協力を惜まないだろう。

対話は身体を通し、行動を通して血の通いこそ真の対話であると思えます。

この親子スポーツ大会は、わが子を、そして自分の親を見直すよい機会であったと確信しました。

ある日、ひさびさに純行列車に乗って松山まで出かけた。ちょうど高校生の下校時で、列車の中は高校生で満員であった。

それぞれに話はずんずんかきかきと、私の側に立った女生徒二人が話しているのを聞くともなく聞いてみると、「〇〇さん、大学へ行くようになったらね、それで何が作れるの?」何と作らなから何もできないわ、カップヌードルばかりでは栄華失調になるわね。「私もそうよ、何もできないの」。

このような簡単な会話が交わされていた。

私は十四歳の年に種畜場に入所して自炊生活を始めた。もちろん、今のようないんスタント食品はないから全部手づくりである。男ばかり四人で交代に自身の先生の分まで作ったものだ。

今は、ほとんど高校に進学しているが、なぜ家庭で家事の手伝いなどをさせて、家庭生活の中で実際に自分で生きていく方法を教えてやらないのだろうか?

ただ進学のための勉強さとしていれば親は満足しているのだろうか?

その結果はどうなるのだろうか? 話は変わるが、巨人和江川選手の電撃契約というニュースにちょっと驚いた人も多と思う。野球に関心のある人なら誰でも、ドラフト制度は十二球団によってファンに喜んでもらえる野球をしようと考えられ協議されてきた制度だと思いが、一番人気があり、しかも信頼度の高い巨人が自ら協定を破棄して、あたかも正しいかの如き発表を行っている。

もし、そんなことが通用すればドラフト制度はどうなるのか? 自分に都合さえよければどんなことでもする、そんなことは絶対に許されないが今の世の中には多すぎ、お互いに自覚し自ら人間性豊かな子供達を育てるため努力せねばと痛感した次第である。

(F)

「学校だより」

—河辺小の親子スポーツ大会—

親子断絶など吹く風。

「やねばし」

